

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500645	
法人名	有限会社 飛翔会	
事業所名	グループホームゆず	
所在地	岐阜県各務原市那加西市場町2-120	
自己評価作成日	令和7年8月8日	評価結果市町村受理日 令和7年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170500645-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和7年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各務原市重点風景地区に指定されている旗本徳山陣屋周辺の歴史ある趣深い集落にあり、緑豊かな環境の中で落ち着いた生活を送っています。開設当初からの職員も多く入居者の方と馴染みの関係を作っています。避難滑り台、消火スプリンクラー、火災通報装置停電時でも電気設備等を稼働する事が出来る非常用発電機やコロナウイルス等施設内療養を求められた場合など療養居室を陰圧にし館内にウイルスの流出を最小限に抑える陰圧装置等充実した安全設備を完備し安心して暮らして頂けます。また地域の行事や防災訓練等にも積極的に参加をさせていただき地域に根ざしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に寄り添い、じっくり話を聞いて望んでいることが叶えられるように支援している。住宅街の中に移転して11年、大家さんや近所の方との日常的な交流により、顔が見える関係性を築いている。子どもも110番の家に登録し、子ども達と散歩時に挨拶や声かけしたり、クリスマスツリーや雑貨の見学に事業所を訪れたりしている。ボランティアの来訪や公園でのシニアクラブの催しに参加や見学し、住民と触れ合う機会が増えるようにしている。AEDの設置、避難先として利用できる事を住民に伝え、地域の防災力向上にも貢献している。利用者が何を望むか、最期はどう暮らしたいか、その人らしい最期がおくれるよう医師と連携し支援する体制にしている。勤続年数の長い職員が多く利用者と馴染みの関係を築いている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<p>1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの ○ 3. 利用者の1/3くらいの ○ 4. ほとんど掴んでいない ○</p>	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:8,9)	<p>1. ほぼ全ての家族と ○ 2. 家族の2/3くらいと ○ 3. 家族の1/3くらいと ○ 4. ほとんどできていない ○</p>
44 利用者と職員が、一緒にやつたりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<p>1. 毎日ある ○ 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまにある ○ 4. ほとんどない ○</p>	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<p>1. ほぼ毎日のように ○ 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまに ○ 4. ほとんどない ○</p>
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<p>1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない ○</p>	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<p>1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない ○ 4. 全くない ○</p>
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<p>1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない ○</p>	53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	<p>1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない ○</p>
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<p>1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどない ○</p>	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどない ○</p>
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<p>1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどない ○</p>	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが ○ 3. 家族等の1/3くらいが ○ 4. ほとんどない ○</p>
49 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<p>1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどない ○</p>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し全職員が理念を共有している。地域の行事や日常の交流などを通し入居者や職員が地域と馴染んだ生活が出来るようにしている。	月1回の職員会議で理念の具体的な内容について話し合っている。利用者の話を聞き、望んでいることは何かを探っていくことの重要性を管理者は常に話している。リビングに理念を掲示し、ケアで活かすよう努めている。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し清掃や廃品回収当番なども担当しています、またイベントに参加することで地域の方とのお付き合いを深めています。畠の収穫物等のおすそ分けや、回覧板の受け渡し時などに情報交換するなど日常的に交流を図っている。	シニアクラブからイベントの誘いがある。歌やダンスのボランティアと交流し、住民から野菜や果物の差し入れがある。職員が地域の清掃活動、廃品回収、防災訓練や行事に参加し事業所の理解に努めている。クリスマスツリーや雑飾りを小学生が見学に訪れている。	
3 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	シニアクラブ、民生委員、行政、ご家族の方々に参加頂き定期的に開催しておりましたが現在滞っています、早急に定期開催を目指しています。近隣の方々にご認知いただいているのは現在までの会議開催の積み重ねによるものと思っています。	各種委員会で検討した内容も含めて、事故報告、行事や活動状況等を報告し、意見をもらっている。地域の役員から様々な情報をもらい、利用者が参加できない活動や行事等は、職員が協力している。会議での意見は職員に伝え共有している。	
4 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小さな疑問点や各種報告等で高齢介護課を訪問しつながりのある関係の維持が出来るよう努めています。 また管理者交代による業務の引継ぎなども多く助言を頂き円滑に進めることができました。	市の担当者とは電話やメールでのやりとりもあるが、直接訪問し実情を伝えている。毎月多職種が集まる生活圏域ネットワーク会議に参加し、情報を得ている。生活保護担当者とも定期的に面談し、介護認定審査会委員に2名が就任し関係性を築いている。	
5 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束についての指針・取り組み」を整備しそれに基づき研修や検証を行っています。また3ヶ月に1度開催している適正化委員会では問題の見極めや指針の再確認などをを行い職員に周知、共有する事としています。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催している。困りごとが身体拘束に繋がらないよう、なぜその現象が起きたか、どうしたらストレスを減らせるか等を分析し、ケア方法を職員会議で話し合い、研修も実施している。	
6 (6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し防止の徹底に努めています。またzoom研修や地域ケア会議で開催される勉強会等で虐待防止について学んでいます。身体拘束適正化と結び付け職員の研修を行っています。	虐待防止の指針を定め、委員会も開催している。ケアを通して振り返りの場面がもてるよう、利用者がどう思うか等を、管理者が職員に問いかけている。何気ない声かけや行動が不適切ケアになる場合があること等を事例で学んでいる。	

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士と連携して入居者に後見人の設定をさせて頂いた経験があります。また後見人の付いた方も何名もご入居頂いた経験もあり、市社会福祉課等とも連携を図るなど本人の権利を守るべく職員一同で慎重に対応しております。		
8	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し書面と口頭によりご説明を行い契約書を2部作成し双方が1部ずつ保管します。契約内容に変更がある場合は遅滞なく文章にし双方で確認、保管しています。運営推進委員会でも契約までの経緯を報告しています。		
9 (7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者やケアマネにメールなどで気安く連絡がとれる様にしています。また運営法人役員が現場で勤務している事もあり迅速に要望を運営に反映させる事が可能です。	家族には個別の連絡手段(LINE・メール等)を通じて、写真や動画に文章を添え、事業所内での様子を伝え意見を言いやすくしている。面会時や電話でも利用者の様子を伝え、意見が言いやすいように話しかけ、出た意見は職員で共有し対応している。	
10 (8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の中、また個別に意見要望を聞き運営に反映しています。また法人役員が現場で勤務している事もありダイレクトに要望を聞き運営に反映させる事が可能です。	月1回の職員会議以外にも、毎日の業務内や申し送り時にも、直接意見を言ったり確認する機会がある。職員個々の面談希望を確認し、一人ずつ意見を聞く機会をもった。職員の意見で掃除機や洗濯機を買い換えた。職員の希望で時短勤務や休暇に配慮している。	
11 (9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人役員が勤務に入っていることもあり職員の勤務状況、個々の考え方を把握し環境整備や処遇について思案し改善へ繋げています。	インフルエンザ予防接種の補助、介護福祉士やケアマネジャーには資格手当の付与、職員会議にケーキや菓子を提供している。職員の希望や事情を把握し、業務内容をバランスよく割り振り、働きやすくしている。就業時間や休みもできるだけ希望に合わせている。	
12 (10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を催したり外部の研修会議に参加しています。また地域の行事に参加をしてもらい地域とのつながりを直に感じてもらう様にも取り組んでいます。任意の外部研修においても費用は施設負担で取り組んでいます。	事業所内研修の他、市の研修会にも参加している。研修費用は法人で負担している。資格取得や外部研修等は、各職員の主体性を尊重しているが、就労年数やスキルに合わせた研修に参加する機会が少ない。	職員ごとのスキルや意欲に合わせた研修内容を鑑み、職員個々が前向きに取り組みたくなるような姿勢の醸成に期待したい。

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	担当区域の包括支援センターで毎月行われる「地域ケア会議」では施設ケアマネが他の介護事業者とグループワークを行い交流を深めたり、情報交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
14	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に暮らすという意識を持ち、一方通行の関係にならぬ様に相互扶助の精神を以って信頼関係を築いています。また日常会話や挨拶などコミュニケーションを図ったり手伝いを頂いたときは感謝を伝え共に暮らすものとし生活しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
15 (11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が何を求めているか、何に不安を感じているか生活の様子や会話、時には訴えの中から汲み取り本人の思いに対する対応を職員間で共有し思いを叶えられるように対応しています。	利用者に合わせて耳元でゆっくりと聞き、筆談を交えることもある。日頃の生活で望むことは何かを、さりげなく確認するように会話をしている。1対1となる居室や入浴時に聞いたり、特定の職員が聞く場合もある。困難な人には仕草や行動から推測している。	
16 (12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	接遇日誌、業務日誌、職員会議録の記入に際し主治医や各関係者、職員の意見を反映しやすく介護計画の作成に役立てている。コロナ禍となって以来職員の入れ替わりが依然と比べ多くなった、チームとしての連帯の構築に苦労している。	3ヶ月毎にケアプランを更新し、毎月のケア会議でモニタリングしている。入居時や看取り時は1ヶ月で更新し、必要時は随時見直している。事前に利用者の思いを聞き、面会時に家族からの意見を確認し、医師の意見を求める場合もある。	
17 (13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の接遇日誌を作成し介護計画の実践を確認しています。また日々の職員間での情報の共有は業務日誌の閲覧及び申し送り書にて行っています。	個別記録は接遇日誌に記録し、重要な内容はペンの色を変えて目に付くようにしている。業務日誌の申し送りと連絡事項ノートに、大事な事項は赤字で記載し、朝夕の申し送りで職員に伝え共有している。グループラインは行事報告やシフト程度で活用している。	
18 (14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ日常生活でのニーズ以外にも可能な限りお応えしています。特に家族不在時の緊急の受診においては病院での処置が必要な事が多く半日以上に及ぶこともありますがサービスの一環と捉え対応しております。	家族の事情に応じて緊急時の受診介助や病院内の付き添い介助をしている。日用品の購入等を代行したり、おやつや洋服等の購入に利用者と一緒に外出し買い物支援をしている。	

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地域のボランティアをお招きしたり包括支援センター等のイベントに参加していました。現在は地域の方が集う公園やシニアクラブの催しには感染防止の上に積極的に関わっております。		
20 (15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の協力医の指導や往診を受けております。ご本人やご家族の要望を伝え安心した生活が送れるよう支援しています。また協力医以外への通院に關してもサービスの一環として理解し対応しています。	入居時に24時間連携可の協力医に全員が変更している。家族が同行し他科受診時は、日頃の様子を書面で渡し受診後に報告を受けている。訪問診療時は事前に書面で医師に体調や症状の変化を伝え、医師から返信をもらい診察前にも職員と面談している。	
21 (16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先への情報提供、ソーシャルワーカーと協議し退院時の調整を行います、また病院からの情報を施設協力医へお伝えしている。入院期間中の居室の確保等退院の見込みのある方が安心できるよう整備しています。	入院時は病院の相談員に経緯を説明し、協力医にも情報提供している。家族からも随時状態確認し、退院後の受け入れ体制を説明し、協力医からも説明してもらっている。退院時はカンファレンスに参加しサマリーをもらっている。	
22 (17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医院の居宅管理指導に則りご家族と十分協議しホームでの継続ケア、もしくは入院の見極めを行っています。また医師の指導の下にホームでの看取りにご納得いただいたご家族様には「看取りについての同意書」をご提出いただいている。	入居時に医療行為が必要時は受け入れできない事を説明している。状態変化のある時点で、折りに触れ家族と意向を確認している。その人らしい最期とは何かを、医師や家族も一緒に考え看取りを希望する場合は、不安に寄り添い一緒に看取っている。	
23	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	協力医の指示により救急の要請行います。連絡が取れない状況にある時は施設の緊急時マニュアルに沿って救急の要請をします。またAEDを用い万が一の場面に対応します。		
24 (18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎回、日中と夜間想定を利用者も参加して行い、消火訓練や災害訓練も実施している。備蓄品や自家発電設備があり、近隣住民の一時的な避難場所として提案し、災害時の協力も依頼している。地元の消防団に事業所の形態や見取り図を提出し協力依頼をしています。	大雨による水害訓練や夜間想定も含めた避難訓練を年2回実施している。BCPを策定し、水、米、レトルト食品等を備蓄している。地域の防災訓練にも参加し、近所の方と顔の見える関係作りに努めている。非常時に地域住民の避難所として使ってもらえるよう声かけしている。	

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
25	(19) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務日誌や処遇日誌は目につかない場所で保管しています、声かけも入居者が年長者であることを明確に表現し気分を害されないよう配慮しています。また居室扉の開放を望む方には暖簾やつい立を配置しています。	家庭的な雰囲気で親しみやすさから、友達口調にならないよう丁寧な声かけや言葉遣いに注意している。気になる場合は職員同士で注意し合っている。居室の名札は希望で掲示し、居室入口に暖簾を掛けトイレは扉の開閉に気をつけ、プライバシーに配慮している。	
26	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思ったことを声にしやすいように職員との相性を考慮します。また普段から信頼関係を築くよう配慮しています。また表情や行動から思いを推測できるように努めています。		
27	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律のルールやスケジュールに沿った生活以外にも対応しています。個々の日常生活能力に違いがあるため個人を重視したスケジュールで対応しています。		
28	(20) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の能力や性格を把握した上で配膳や調理、座席配置をお願いしています。食事時は干渉を出来るだけ控え本人の意思を尊重します。また居室での食事を希望される方には部屋出し対応をしています。	収穫した野菜や頂いた旬の野菜を献立に取り入れている。食べたいものを聞き、行事食、誕生日は赤飯、ハンバーガー等のテイクアウト、手作りおやつ、週1回は好きな飲み物を選べる喫茶日で楽しみな時間にしている。下拵え、食卓や食器拭き等を一緒にしている。	
29	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事量を観察記録しています。また個人の噛む力や、飲み込み、むせ等に考慮した飲食物の提供をしています。		
30	(21) ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な範囲はご自分で、介助が必要な場面は職員がお手伝いします。希望者は月に一度程歯科検診を受ける事が出来ます。また口腔ケア勉強会にも参加しています。	毎食後、口腔ケアを促し見守りしているが、特に夕食後は口腔内の清潔に努めている。歯科医の指導も得て、口腔内の状態に合わせて歯ブラシ、歯間ブラシ、スポンジブラシや口腔清拭と介助し、義歯は夜間預かりしている。口腔ケアの研修も行っている。	

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導を行っています。またポータブル使用を希望される方にはプライバシーの確保や衛生を保てるよう配慮しています。		
32	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	見守り状態でご自分で入る事の出来る方は就寝前等出来る限り希望に沿った入浴が出来る様、個々の状態に合わせた対応をしています。また敬遠される方にも入浴する気になって頂く様促し本人の意思決定を大切にします。		
33	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はプライベートが確保されています、共有スペースと個人スペースの使い分けをして寛ぎや睡眠に配慮しています。		
34 (22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり名前の明記された薬箱を用い誤飲防止に努めています。居宅管理指導をして頂き、入居者の病状留意点が分かるようになっています。	薬の変更時は変更内容や効能等を申し送りで伝えている。服薬時は本人の目前で声かけし、口内に入れ飲み込みを確認している。空き袋は所定の場所で保管し廃棄している。服薬しづらさがあれば、医師に相談し錠剤の粉碎やトロミ剤使用し飲みやすくしている。	
35 (23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や畠仕事等の日課やカラオケや絵を描くなど趣味についても当たり前の日常生活が送れるよう可能な限り支援しています。	利用者一人ずつの趣味や習慣を大切にして、得意なことが継続できるようにしている。編み物、写経、読経、折り紙、塗り絵、カラオケ等の楽しみな活動やモップかけ等の掃除、洗濯物畳み、調理手伝い、野菜の収穫等の家事仕事が生きがいとなるようにしている。	
36 (24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症の状況に配慮した上で入居者の状況、状態に合わせ、散歩や買い物で日常的に外出される方や、家族やなじみの方へ働きかけをし一時帰宅を楽しまれる方もおられます。	花見や初詣は全員で外出し、近所の公園や神社への散歩、受診や買い物は個別で対応している。家族の協力を得て通院や喫茶店へ行く人もいる。総合スーパーでの作品展の見物に外出を予定している。畠を眺めたり駐車場に出て外気に触れる機会をつくる。	

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と外出の際など予めご家族様と取り決めた金額をお渡しし買い物を楽しんで頂けるよう配慮しています、外出の難しい方には家族から預かったお金があるから欲しいものない?などと声をかけ買い物のお手伝いをしています。		
38	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要求に応じて、季節の便りを出すお手伝いをしたり、電話の利用をしていただいている。またご自分から要望をされない方には提案をさせて頂き支援しています。ご自分で携帯電話を持ち込んでいらっしゃる方はご自分のペースで会話を楽しんでおられます。		
39 (25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に季節ごとの飾りを施しています。脱衣所やトイレもプライバシーに配慮しています。すべてのカーテンを遮光とし外光に敏感に反応する方へ配慮をしています。リビングは熱交換換気による外気の取り込みを行い空気の循環をしています。	リビングに植木鉢を置き、季節の壁画や利用者の作品を飾っている。廊下の壁面にも季節の飾り物や利用者の書道作品や塗り絵等を掲示している。利用者がTVを見たり、新聞を読んだり自由に過ごせるようにしている。室温に配慮し換気や消毒している。	
40	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお喋りしておられればお茶をお出し寬いでいただいたり、廊下には邪魔にならないよう椅子を置き井戸端会議をしていただいたり、畑や花壇を手入れすることで落ち着かれたり、共有空間においても個々の活動や交流が出来るよう配慮しています。		
41	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に働きかけ自宅で使用していた愛用品を出来る限りお持ち頂き、使い慣れた物や大切な物をそばに置き落ち着ける空間を作つて頂いています。		
42	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得てネームプレートをつけてあります。目印を置いたりし自室が分かりやすいような居室もあります。トイレに頻回に通われる方はトイレに近い居室を利用して頂いたり、廊下には障害物を置かないようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500645		
法人名	有限会社 飛翔会		
事業所名	グループホームゆず		
所在地	岐阜県各務原市那加西市場町2-120		
自己評価作成日	令和7年8月8日	評価結果市町村受理日	令和7年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosoCd=2170500645-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和7年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	50	<input type="radio"/> 1. 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にやつたりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	51	<input type="radio"/> 1. 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	52	<input type="radio"/> 1. 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	53	<input type="radio"/> 1. 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	54	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	55	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し全職員が理念を共有している。地域の行事や日常の交流などを通し入居者や職員が地域と馴染んだ生活が出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し清掃や廃品回収当番なども担当しています、またイベントに参加することで地域の方とのお付き合いを深めています。畠の収穫物等のおすそ分けや、回覧板の受け渡し時などに情報交換するなど日常的に交流を図っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	シニアクラブ、民生委員、行政、ご家族の方々に参加頂き定期的に開催しておりましたが現在滞っています、早急に定期開催を目指しています。近隣の方々にご認知いただいているのは今までの会議開催の積み重ねによるものと思っています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小さな疑問点や各種報告等で高齢介護課を訪問しつながりのある関係の維持が出来るよう努めています。 また管理者交代による業務の引継ぎなども多くの助言を頂き円滑に進めることができました。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束についての指針・取り組み」を整備しそれに基づき研修や検証を行っています。また3ヶ月に1度開催している適正化委員会では問題の見極めや指針の再確認などをを行い職員に周知、共有する事としています。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し防止の徹底に努めています。またzoom研修や地域ケア会議で開催される勉強会等で虐待防止について学んでいます。身体拘束適正化と結び付け職員の研修を行っています。		

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士と連携して入居者に後見人の設定をさせて頂いた経験があります。また後見人の付いた方も何名もご入居頂いた経験もあり、適切な関係先と連携を図りご本人の権利を守るべく職員一同で慎重に対応しております。		
8	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し書面と口頭によりご説明を行い、契約書を2部作成し双方が1部ずつ保管します。契約内容に変更がある場合は遅滞なく文章にし双方で確認、保管しています。運営推進委員会でも契約までの経緯を報告しています。		
9 (7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させてている	管理者やケアマネにメールなどで気安く連絡が取れる様にしています。また運営法人役員が現場で勤務している事もあり迅速に要望を運営に反映させる事が可能です。		
10 (8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させてている	職員会議や日常の中、また個別に意見を聞き運営に反映しています。また法人役員が現場で勤務している事もありダイレクトに要望を聞き運営に反映させる事が可能です。		
11 (9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働くよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人役員が勤務に入っていることもあり職員の勤務状況、個々の考え方を把握し環境整備や処遇について思案し改善へ繋げております。		
12 (10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を催したり外部の研修会議に参加しています。また地域の行事に参加をしてもらい地域とのつながりを直に感じてもらう様にも取り組んでいます。任意の外部研修においても費用は施設負担で取り組んでいます。		

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	担当区域の包括支援センターで毎月行われる「地域ケア会議」では施設ケアマネが他の介護事業者とグループワークを行い交流を深めたり、情報交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
14	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に暮らすという意識を持ち、一方通行の関係にならぬ様に相互扶助の精神を以って信頼関係を築いています。また日常会話や挨拶などコミュニケーションを図ったり手伝いを頂いたときは感謝を伝え共に暮らすものとし生活しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
15 (11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が何を求めているか、何に不安を感じているか生活の様子や会話、時には訴えの中から汲み取り本人の思いに対する対応を職員間で共有し思いを叶えられるように対応しています。		
16 (12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	接遇日誌、業務日誌、職員会議録の記入に際し主治医や各関係者、職員の意見を反映しやすくし介護計画の作成に役立てている。コロナ禍となって以来職員の入れ替わりが依然と比べ多くなった、チームとしての連帯の構築に苦労している。		
17 (13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の接遇日誌を作成し介護計画の実践を確認しています。また日々の職員間での情報の共有は業務日誌の閲覧及び申し送り書にて行っています。		
18 (14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ日常生活でのニーズ以外にも可能な限りお応えしています。特に家族不在時の緊急の受診においては病院での処置が必要な事が多く半日以上に及ぶこともありますがサービスの一環と捉え対応しております。		

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地域のボランティアをお招きしたり包括支援センター等のイベントに参加していました。現在は地域の方が集う公園やシニアクラブの催しには感染防止の上に積極的に関わっております。		
20 (15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の協力医の指導や往診を受けております。ご本人やご家族の要望を伝え安心した生活が送れるよう支援しています。また協力医以外への通院に關してもサービスの一環として理解し対応しています。		
21 (16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先への情報提供、ソーシャルワーカーと協議し退院時の調整を行います、また病院からの情報を施設協力医へお伝えしている。入院期間中の居室の確保等退院の見込みのある方が安心できるよう整備しています。		
22 (17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医院の居宅管理指導に則りご家族と十分協議しホームでの継続ケア、もしくは入院の見極めを行っています。また医師の指導の下にホームでの看取りにご納得いただいたご家族様には「看取りについての同意書」をご提出いただいています。		
23	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	協力医の指示により救急の要請行います。連絡が取れない状況にある時は施設の緊急時マニュアルに沿って救急の要請をします。またAEDを用い万が一の場面に対応します。		
24 (18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎回、日中と夜間想定を利用者も参加して行い、消火訓練や災害訓練も実施している。備蓄品や自家発電設備があり、近隣住民の一時的な避難場所として提案し、災害時の協力も依頼している。地元の消防団に事業所の形態や見取り図を提出し協力依頼をしています。		

グループホームゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務日誌や処遇日誌は目につかない場所で保管しています、声かけも入居者が年長者であることを明確に表現し気分を害されないよう配慮しています。また居室扉の開放を望む方には暖簾やつい立を配置しています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思ったことを声にしやすいように職員との相性を考慮します。また普段から信頼関係を築くよう配慮しています。また表情や行動から思いを推測できるように努めています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律のルールやスケジュールに沿った生活以外にも対応しています。個々の日常生活能力に違いがあるため個人を重視したスケジュールで対応しています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の能力や性格を把握した上で配膳や調理、座席配置をお願いしています。食事時は干渉を出来るだけ控え本人の意思を尊重します。また居室での食事を希望される方には部屋出し対応をしています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事量を観察記録しています。また個人の噛む力や、飲み込み、むせ等に考慮した飲食物の提供をしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な範囲はご自分で、介助が必要な場面は職員がお手伝いします。希望者は月に一度程歯科検診を受ける事が出来ます。また口腔ケア勉強会にも参加しています。		

グループホームゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導を行っています。またポータブル使用を希望される方にはプライバシーの確保や衛生を保てるよう配慮しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	見守り状態でご自分で入る事の出来る方は就寝前等出来る限り希望に沿った入浴が出来る様、個々の状態に合わせた対応をしています。また敬遠される方にも入浴する気になって頂く様促し本人の意思決定を大切にします。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はプライベートが確保されています、共有スペースと個人スペースの使い分けをして寛ぎや睡眠に配慮しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり名前の明記された薬箱を用い誤飲防止に努めています。居宅管理指導をして頂き、入居者の病状留意点が分かるようになります。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や畠仕事等の日課やカラオケや絵を描くなど趣味についても当たり前の日常生活が送れるよう可能な限り支援しています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症の状況に配慮した上で入居者の状況、状態に合わせ、散歩や買い物で日常的に外出される方や、家族やなじみの方へ働きかけをし一時帰宅を楽しむ方もおられます。		

グループホームゆず

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	職員と外出の際など予めご家族様と取り決めた金額をお渡しし買い物を楽しんで頂けるよう配慮しています、外出の難しい方には家族から預かったお金があるから欲しいものない?などと声をかけ買い物のお手伝いをしています。		
38	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要求に応じて、季節の便りを出すお手伝いをしたり、電話の利用をしていただいている。またご自分から要望をされない方には提案をさせて頂き支援しています。ご自分で携帯電話を持ち込んでいらっしゃる方はご自分のペースで会話を楽しんでおられます。		
39 (25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に季節ごとの飾りを施しています。脱衣所やトイレもプライバシーに配慮しています。すべてのカーテンを遮光とし外光に敏感に反応する方へ配慮をしています。リビングは熱交換換気による外気の取り込みを行い空気の循環をしています。		
40	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお喋りしておられればお茶をお出しし窓いでいたいたいたたり、廊下には邪魔にならないよう椅子を置き井戸端会議をしていただいたたり、畑や花壇を手入れすることで落ち着かれたり、共有空間においても個々の活動や交流が出来るよう配慮しています。		
41	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に働きかけ自宅で使用していた愛用品を出来る限りお持ち頂き、使い慣れた物や大切な物をそばに置き落ち着ける空間を作つて頂いています。		
42	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得てネームプレートをつけてあります。目印を置いたりし自室が分かりやすいような居室もあります。トイレに頻回に通われる方はトイレに近い居室を利用して頂いたり、廊下には障害物を置かないようにしています。		